

**2015年(第17回)全国中高等学生日本語学力競試大会  
＜2次大会(スピーチコンテスト)発表原稿＞**

**中等部 8名 / 高等部 13名**

**社団法人 韓日協会**

## 「絆」と言う名の花

中等部 반규리 (潘奎利, Ban Gyu Ri)

こんにちは。潘奎利と申します。

世界はあらゆる不思議な事と偶然で満ちていて、人生は様々な出来事から成り立っています。その中で自分にとって大きな意味を持つ経験は、誰にでも一つくらいはあるはずです。そして人物との出会い、即ち絆も又その一つであるでしょう。今日は私の人生で遇ったあるお婆さんとの絆を紹介したいと思います。日本についても、日本人についてもよく知らなかった頃、偶然に接した日本のゲームと音楽は幼い私にとってもう一つの世界と同じでした。一曲、二曲、知っている曲が増える度に、文化への関心は言語への関心にもなり、自然に私は日本語を独学で勉強し始めるようになりました。しかし一人で勉強する事が、時には寂しく感じられ「いつか日本語がもっと上手になったら、日本人に会ってみせる」と私なりの目標を立て、決意を固めました。

時は流れ、小学校 5 年生になった私は簡単な日本語での会話は交わせるようになりました。そしてある日、お母さんと共に日本公報文化院を訪問しました。文化院の 3 階に上がると一人のお婆さんがいました。しかしその時まで私の中にある日本人のイメージはかなりのむっつり屋で理性的な、なんとなく近付きにくい感じでした。そればかりか、私の性格も消極的なため、気軽に話しかけられず躊躇うばかりだったのです。その時、お母さんから「勇気を持ちなさい」と言われました。それがそんな私を変えたきっかけである、日本の生け花流派「錦花池坊」の 3 代家元を務めている加藤さんとの初対面でした。また、一緒に韓国を訪れた生徒達とも知り合うことができました。

加藤さんが日本に帰った後も、手紙やメールを交換しながら連絡を続けました。それから約一年半後、中学校に入学する直前、錦花池坊の皆さんにもう一度会いに行く機会が出来ました。他でもなく家族と日本へ旅に出る事になったのです。だけど私以外の家族は日本語が出来ず、その方々を知っているのも自分一人だけで期待する一方、少しは心配もありました。

やがて扉を開いた時、そんな私の悩みはいつの間にか消えてしまいました。生徒達と一緒に生け花講習を受けたり、素敵なお土産をもらえたり、言葉が通じない時は私が間に入って通訳すると、家族も笑顔が絶えませんでした。帰る際、お互い準備したお土産を交換し合って再び会う事を約束しました。そんな風景は海を隔てた他人ではなく、まるで久々に出会った家族みたいでした。

少しは遠くにいても、嬉しさを共有し悲しみを分かち合える人たち。たとえ国が違って、言語が違ってても友情はそんな事に限らず、本気でお互いを見つめ合えるならいくらでも友達になれる事を、私は加藤さんのお陰で知る事ができました。そしてその為には自ら先に心の扉を開くべきです。

偶然なきっかけで日本語を始め、偶然に文化院を訪れて、偶然に加藤さんを知るようになって私の世界が変化したと言う事は、まさに偶然が作ってくれた一つの絆だと思いませんか。私の人生が貰ったいくつかの奇跡がもしあるとしたら、その一つはきっとこの方々との出会いでしょう。その絆は、まるで一輪の花のような物でした。

ご清聴、ありがとうございました。

## 私と日本語

中等部 김세원 (金世媛, Kim Se Won)

今日は皆さんに、今までやってきた自分の日本語の勉強のやり方について紹介します。諦めたい時もありましたが、うまく乗り越えてここまで来たと思います。私なりのコツもありますから、みなさん、よく聞いてください。

私が日本語を覚えたのは、小学生の時から見えてきた、日本のアニメを通してです。はじめは、きれいな画面が好きで、ずっと見ていましたが、見ているうちに、自然に日本語が聞こえるようになりました。字幕なしにも、どういう意味か分かるようになったんです。この時は、本当に不思議だと思ったし、自分が天才じゃないかとも思いました。

こういう姿をお母さんがみて、本格的に日本語を勉強するようになりました。

でも、聞き取るのは自信があっても、字を書いたり、本を読んだりするのは難しかったです。本で日本語を勉強してみたら、今まで自分が知っていた日本語ではありませんでした。私は漢字が難しくて、日本語を諦めようかとも思いました。でも、その時、お母さんが、一つコツを教えてくださいました。それは、毎日、日本の昔話を1ページずつ書いてみることです。これは正解でした。毎日昔話を書いてみると、難ししくて読めなかった漢字がだんだん読めるようになったし、また書けるようにもなりました。以前、漢字だけを勉強してみたこともありましたが、その時は、退屈で続けることができませんでした。でも、昔話は面白い話があるし、たまにはきれいな絵もあって、そんなに退屈ではありませんでした。また、教訓的な話もあって、学校の勉強にも役に立ちました。昔話を書くのは今も続けていますが、本当にいい方法だと思います。皆さんもぜひやってみてください。

漢字の次は試験です。次は試験に挑戦してみることにしました。でも、日本語能力試験N1というのは、また、自分が思ったこととは違う世界でした。

漢字もそうだし、読解の内容も何を言っているのか全然分かりません。問題を解く時間も足りなくて、日本語の先生にいつも「早く、早く」と言われて、ストレスが一杯でした。一緒に勉強している大人たちはよくできるのに、どうして私はできないのかと思えて、悔しくなりました。

こういう悩みで、日本語の先生に相談してみたら、先生は、それは、自分の日本語の問題だけでなく、経験と知識が足りないからだと言います。漢字を読めるようになると、何でも日本語はできると思ったのに、日本語にも経験と知識が必要でした。

私は中学を卒業すると、高校は日本で通うつもりです。これからはもっと広い世界に出て、いろんな人と付き合いながら経験と知識を積むと、私の日本語ももっとアップするでしょう。

もっと上手な日本語ができるように、日本でいろんな経験をやってみたいです。

## 受け入れる人

中等部 노향지 (魯香芝, No Hyang Ji)

はじめまして。私はノ・ヒャンジと申します。中学三年生で、テグから来ました。人前に立つのは苦手ですが、昔からこのような機会を待ち望んでいたもので、今ここに立っていただけるのが私にとってはいたって光栄です。私は今日‘夢’について話してみたいと思います。最後までうまく話せたらいいですね。そうするように頑張ります。

16歳、私と同じ年頃の生徒達のほとんどには将来叶えたいと思っている夢があります。学校で同じクラスの人たちに夢について聞いてみたところ、大部分の生徒達がすでに自分たちの進路を決めている状態でした。ある人は医者になるために医大に進学すると言い、ある人はパティシエになるために免許状を取得するつもりだと言いました。また、ある人はファッションデザインの勉強をするために海外へ留学するつもりだと言い、ある人は運動選手になるために大会でキャリアを積むと言いました。私は彼らの話を聞いて驚かざるを得ませんでした。なぜなら私にはまだ進路計画など、夢など無かったからです。

初めから夢が無かったわけではありません。幼い頃には私が大きくなったら何でも出来そうなきがして、具体的な計画も無しに小説家だとか、漫画家だとか、ギターリストだとかの漠然な夢を見ていました。しかし年を取るにつれて、そういった夢を叶えるには私の情熱が、知識が、能力が物足りないという事に気がついたのです。憧れてはいましたが、それを叶える度胸も準備も無かったのです。周りの人たちは前もって作った進路計画の階段を一步一步踏みながら前へと進んで行くのに、私一人だけが平らな道で足踏みをしているようで不安でめまいすらしました。焦って必死に探せば探すほど、私が何をうまくやれるのか、何をしたいのかがどんどん分からなくなっていきました。真っ暗な井戸の底に落ちていくような気分でした。

しかし、そうやって悩んで迷う時間も結局は過ぎていきました。答えは両親でも、先生でもなく、時の流れが教えてくれたのです。ある日私は突然、‘夢’というのは必ずしも進路につただけではないということに気が付きました。‘どんな職業を持った人になりたいのか’ではなく、‘どんな心を持った人になりたいのか’を知ることが重要だということが分かったのです。私は今までやってきた将来への数え切れない悩みや迷いたちが初めて私をこのような悟りに導いたということ、そしてそれらは決して無意味ではないということに気づいたのです。この経験を通じて決めた私の夢は、‘受け入れる人’になるということです。私は不安や戸惑いさえも受け入れて、それらを乗り越え前へと進む人生を過ごしたいです。もし皆さんの中の誰かが今行く先を失い、さまよっているのならば、私はさまよい続けろと助言するでしょう。なぜなら夢その物よりも、夢を探し迷う今この瞬間がもっと大切で価値のあるものだと思うからです。今まで聞いていただきありがとうございました。

## 「一生の大親友」

中等部 홍서린 (洪叙璘, Hong Seo Rin)

初めまして。私はハンソン中華学校に通っているホン・ソリンです。

今日私がスピーチするタイトルは「一生の大親友」です。

みなさんは大親友がいますか？私には今とても大切な大親友がいます。

私の大親友は小学2年生の時に会った台湾人の女の子です。

同じ女性から見てもすごく可愛くて私が一目ぼれしたことが、友達になったきっかけでした。私は友達になりたくて「友達になってくれる？」と声をかけましたが、もともと口数の少ない彼女は何も返事をしてくれませんでした。それでも私はあきらめず「友達になってくれる？」「一緒に遊ぼうよ！」と彼女に何度も言いました。そんな私に彼女も心を開いてくれたのか、私達はいつの間にか、どんな事でも話せる友達になっていました。しかし4年生になり、彼女は台湾に戻ってしまい、私達は離ればなれになりました。彼女と離れて寂しかったけれど、他の友達もいたので学校生活も楽しく送っていました。

それから私は5年生になり新学期を迎えました。クラスの友達と会えるのを楽しみにしながら教室に入った瞬間、何かいつもと様子がおかしい事に気付きました。クラスの友達が皆私の挨拶を無視したのです。その時私はまだ状況をつかめずに「みんな新学期なのに、具合でも悪いのかな？」と思いました。しかし日に日に私に対するみんなの行動はひどくなっていきました。その時ようやく、私はいじめなのだということに気がつきました。トイレに呼び出され、暴言を吐かれたり、教室の掃除をしている時に足をふまれたりもしました。毎日毎日続きました。いつも学校から帰ってきたら、部屋で一人で泣きました。両親にも心配をかけたくなかったので言えませんでした。私の心と体はもう限界でした。そんな中、唯一私の話を聞いてくれたのが、台湾へ行ったあの友達でした。彼女は台湾にいるにもかかわらず、毎日連絡をしてくれました。そして私の誕生日直前、彼女が私の為に台湾から飛んできてくれたのです。彼女は私を慰めてくれました。そして私がいなくて、クラスの友達に「最近ソリンが辛い思いをしているから、私の代わりに助けてあげて」と頼んでくれたのです。その話を聞いた瞬間、私は涙が止まりませんでした。こんなに私の事を心配してくれる友達がいることがとても嬉しかったです。その友達の為に頑張ろうと思いました。

その後、いじめもなくなり、みんなと仲良く学校生活を送れるようになりました。また私と同じように、いじめにあっている友達がいたら、そばで話をきいて支えになりました。あの時、彼女がいなかったら私はいつまでも部屋で泣いていたと思います。彼女に出会って本当の友達の大切さを学びました。私はこの出来事を一生忘れません。私にとって彼女は大切な友達であり、宝物です。

ありがとう

## 日本で花開く私の夢

中等部 양승준 (梁勝竣, Yang Seung Jun)

皆さん はじめまして。私はソウル・ソンリン中学校 2 年生の梁勝竣です

私は今回、学校や塾で習わず独学で身につけた日本語の実力がどれぐらいか気になり、日本語学力競試大会に参加しました。今日は私が日本に関連した未来の夢を持つようになった過程を皆さんにお話したいと思います。

私が日本の文化に関心を持つようになった理由は、ここにいらっしゃる多くの学生たちがそうであるように、日本のアニメのためです。私は小学校 3 年生の頃、私より先に日本の漫画にどっぷり夢中になっていた兄のすすめで日本のテレビアニメを本格的に見るようになりました。数多くの日本のアニメを見ていくうちに、日本語に親しみを感じるようになりました。日本語の表現がおもしろく聞こえ、まねしてみると結構長い文章も話せるようになりました。母に長い間学習した英語や中国語の発音よりもずっと良いと言われるほどでした。そして好きなアニメを早く見たかった私は、字幕なしでユーチューブなどに上げられたアニメに挑戦するようになりました。「とりあえずなまで見よう」という気持ちでしたが予想外にも画面を見ながら聞いてみると、だいたいのことは聞き取ることができました。「好きこそもののじょうずなれ」を、私が自ら体験したのです。

日本のアニメを楽しく見ていくうちに、日本に興味を持つようになり、直接行ってみたいくなりました。いよいよ小学校 5 年生の冬休みに沖縄旅行に行くことになりました。初日、観光地で出会った日本人たちの対話が理解できて胸がドキドキしました。ただ多少しこわかったので日本語をペラペラと言うことはできませんでした。しかし二日目、日本語を話すことに対する恐れは消えました。早い移動のためにタクシーにりましたが、行き先を言ったのは母でも兄でもない私でした。タクシーの運転手さんは母は日本語ができないのに幼い私が話すのを不思議に思って『スゴイ』を連発し、自分も韓国を訪問したと話しながら、ソウルと釜山に行った写真を見せてくれました。いつの間にか首里城に到着し、降りようとする、運転手さんが沖縄で一番大きいおもちゃ屋にも直接連れて行ってあげると言いました。

以降にも日本各地を旅行し、日本旅行をするたびに私にとっては、ひとつの願い事がますます大きくふくらみました。独特な特色を持った日本の各地域を旅行するたびに、私がここで日本人たちといっしょに暮らしながら、アニメの勉強をして日本で職業を持って生きるとどうだろうか、という思いがしました。日本で現地の人たちと交わりながら住めば日本文化を体験すると、日本のアニメをさらによく理解できると思います。実際に日本のアニメには日本のあちこちの風景が背景に使われ、伝統文化と実際に生きる姿がよく表れています。九州の別府に行った時、別府の森と風景が「となりのトトロ」の背景画の参考になったという話も聞きました。

日本のどこで暮らすにしても、私がしたいのは日本で人文学を勉強した後、深みある勉強をもとにアニメのストーリーを直接作ることです。お聞き下さり、ありがとうございました。

## うちの家族の共通点

中等部 이현승 (李炫承, Lee Hyeon Seung)

こんにちは、私は、堤川ネト中学校 2 年生の李炫承です。

皆さん、皆さんは 家族との共通点をどれほどたくさん持っていますか。

また、家族に嫉妬する心を持った経験や比較を受けた経験がありますか。

とても多いんですって。 私もそうです。

私が日本語を学ぶしかなかった理由は嫉妬と家族のためです。

なんだか気になりませんか。今から私の話を始めます。

私の家族は大家族です。祖父 祖母、両親, 姉, 兄 そして私を含めてみんなで 7 人です。

その中で私は末っ子です。

うちの家はいつもさわがしくてにぎやかな朝を迎えています

たぶんみなさんの家族と変わらない朝でしょう。

でも私の家族にはほかの家族と違っていろいろな共通点を持っています。

その中で一番分かりやすいのがみんな眼鏡をかけていることです。

それで眼鏡屋さんに人気がたくさんあります。

そしてもう一つは家族みんな旅行が好きなことです。

いつも一緒に旅行に行くからお金がたくさんかかるって母は常にぶつぶつ言うんですけど実は旅行が大好きなんです。

それでうちの家族は旅行に関する思い出をたくさん持っています。

特に思い出に残っている旅行には昨年の夏台風が来る前日にハンラサンに登ったことで

うちの家族にとっては忘れられない経験でした。

強い風と雨に降られながら最後まで諦めないで登って到着した頂上のペンノクタン

一言で言えば 'ばんかんこもごもいたる' という言葉がこんな言葉だったんだと感じた旅行でした。

皆さんも今年の夏に一度ハンラサン登り挑戦してみませんか。

無理だとおもいますか。もちろん大変です。でも一度お勧めしたいんです。

台風が来る前日じゃなければいい経験になると思います。

またうちの家族にはもう一つの共通点があります。それはみんな日本語ができることです。

家族はお互いに似ていくという言葉はうちの家族をおいて使う言葉だと思います。

でも私は日本語があまり上手じゃなくていつもお兄ちゃんに比較されました。.

私には三つ上のお兄ちゃんがいるんです。

お兄ちゃんとは一緒に小中学校へ通ったんですけどお兄ちゃんは勉強もできるし日本語も上手でいつもお兄ちゃんには適いませんでした

特に 'だれだれの妹' と呼ばれるの一番嫌いでした。私にも名前があるのにです。

李炫承、本当にきれいな名前じゃありませんか。

それで決心しました。

勉強は少し大変だからその代わりにお兄ちゃんより日本語を上手になれるように頑張りました。

不思議とお兄ちゃんにだけは負けたくないんです。

それがたぶんお兄ちゃんに対する嫉妬でしょう。

それで今回は見せてあげようと思いました。私も日本語が上手だということをです。お兄ちゃんが行った研修に私も行けるということを見せたかったのです。

私はいつも何でもお兄ちゃんより上手になりたいと思っていたんです。だから日本語もならいはじめました。。

お兄ちゃんに対する嫉妬で始めた勉強ですけど うちの家族が全員できる日本語を習うことができても本当にうれしいです。

今では私が母の日本語の実力を越えました。

みなさんも家族の共通点を一度探してみませんか

今までご傾聴ありがとうございました。

## 寿限無（じゅげむ）

中等部 정가민 (鄭加敏, Jeong Ga Min)

みなさんこんにちは。玄華中学校一年生の鄭加敏です。皆さんは日本の文化というと最初に思いつくのは何でしょうか？マンガ、アニメ、おたく、コスプレ、相撲、歌舞伎。私は小さい時から本やインターネットを通してたくさんの日本文化に触れてきました。今日は日本の伝統的な文化である落語をご紹介しますと思います。

落語は三百年以上も続いている伝統的な大衆芸能のひとつです。着物を着た男の人が一人、舞台の上で座布団に座り、物語を語っていきます。身振り手振りで何人分もの役割を演じながら最後に決定的な結末（オチ）で終わる話をするのですが、決定的な結末とは笑いだけでなくびっくりする様なことや感動的なこともあります。わかりやすいのは笑いで終わる落語だと思います。私が一番好きなのが「寿限無」という題目です。

熊五郎さんの所に男の赤ちゃんが生まれ、良い名前をつけてほしいとお坊さんのところへ頼みにいきます。お坊さんが縁起の良い名前をいくつか候補に挙げると、熊五郎さんはどれも捨てがたいと言い、考えた末に「寿限無寿限無、ごころのすり切れ、海砂利水魚の水行末雲来末風雷末、食う寝る所に住む所、ヤブラコウジのブラコウジ、パイポパイポ、パイポのシューリンガン、シューリンガンのグーリンダイ、ポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助」という限りなくめでたい、果てしなく多い、お正月の飾りや長生きした王様の名前などありとあらゆるおめでたいものを全部つなげて名前につけてしまいました。男の子が大きく育ったある時、男の子とケンカをして頭にたんこぶを作った友達が熊五郎さんに泣きながら言いつけに来て、長々と名前を呼んで説明している間にたんこぶが引っ込んだ、というのがこの話のオチです。寿限無を知るようになったのは五歳くらいの時、日本のあるテレビ番組で早口言葉として出ていたのを見たのがきっかけでした。本や動画でそれが落語だと知ったのは何年も後のことです。落語の良いところは日本語の表現が豊富で新しい言葉を覚えながら笑えるということと、せりふがない場面でも動作を見ることで人物の気持ちや景色を想像できる楽しさがあります。ずっと昔の、殿様の時代の歴史的な背景や風習などの予備知識がないといまいち面白味が分からないこともたびたびありますが、そういう部分は本に解説が載っています。新しく覚えた知識と自分の知っている言葉遊びやダジャレが結びついた時には「こんな発想ができるんだ！」と新しい発見を誰かに話して自慢したくなるような嬉しさを感じます。残念なことに私はこれまで本や日本のテレビ番組や動画で落語を見聞きしただけで、実際に人が演じる生の落語を見たことがありません。ですが近い将来一人で日本へ行けるようになったらテレビ番組の「笑点」の公開放送を見に行こうと思っています。みなさんもぜひ一度、落語の世界を味わってみてください。御清聴ありがとうございました。

## 生物工学者という夢

中等部 허성준 (許誠竣, Heo Seong Jun)

皆さん、こんにちは。私はソウルジャヤン中学校の1年生のホソンジュンと申します。 今日皆さんにお聞かせすることは、生物工学者になるという珍しくて大切な私の夢に関することです。

私の最初の夢は医者でした。 私は子供の頃からよく風邪を引いて病院に行きましたが、病院で見えるお医者さんは懸命に患者を治療していて、その姿が深く印象に残っていました。私は医者になることを目指して懸命に勉強していましたが、五年生になった時に夢を検視官に変えました。我が進路について深く考えてみた結果、他の人たちとは違う職業を選びたかったのです。しかし、それも私にはあまり気に入りませんでした。日々を人の屍と送る恐ろしい生活は、私が望んでいる本当の夢ではありませんでした。その時、トムソンという生物工学者についての本を見ました。希望のない患者たちに幹細胞を使って新しい命を作ってあげるという彼の決心が私の心を動かして、私は生物工学者になるという夢を持つようになったのです。

私は将来生物工学者になって、三つの課題を解決したいです。一番の課題は食糧不足問題を解決することです。地球の人口が増えている今、食糧が足りないことは人類に対しては生存と直結する問題ですから、私は安くて品質もいい作物を作り、人類が将来的に安心して暮らせる世界にする助けになりたいです。そうするのが、生物工学者としての使命でしょう。

第二の課題は幹細胞です。これはトムソンという生物工学者が初めに研究したもので、今はアメリカ、ヨーロッパ、日本等科学技術が発達した国々が注目しています。私は不治の病で苦痛の日々を送っている人たちに幹細胞で新たな希望と命を与えたいです。病気の人がいらない世界も、生物工学者が望む世界です。

私は第三の課題を一番大事に思っています。その課題とは大学の教授となって、学生たちを教えながら私が研究をして得た知識を伝え、生物工学が得たたくさんの知識をもっと深く伝えるため、本を書くことです。私は、私が知っていることを他の人たちに伝えなければ、それは本物の知識ではないと思います。ですから、私は学者として私が勉強したことを他の人たちに伝えたいです。その知識が人たちがもっといい世界を作ることに使われたら、それが生物工学者としての最高の喜びでしょう。

私はその課題を解決するために、そして私の夢を成すために、これからも頑張って勉強するつもりです。生物学、化学などの科学と数学を勉強したり、生物工学についての本を読んだりして努力すれば、生物工学者という夢にもっと近くなって、最後にはその夢が夢ではなく現実になるんだと私は信じます。

それでは、このあたりで私の話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

## 言語とコミュニケーション

高等部 김선호 (金善湖, Kim Seon Ho)

春が終わろうとする5月末、私は、ある特別な知り合いから連絡を受けました。中国で暮らしていた時の中国語の先生がソウルに来たのです。私は、去年の夏まで中国で暮らし、様々な国の人々と交流することができました。そしてこの経験こそが、なぜ外国語を学ぶべきか、その理由について深く考えてみるきっかけを与えてくれました。今からお話する私の経験が皆さんのご参考になれば嬉しいです。

私は、幼い頃から外国語に興味がありました。その中でも一番興味があったのが、日本語です。日本語を学ぶことは私にとって楽しみではありましたが、この時点では、私の外国語学習は、単なる自己満足であり、それ以外の何物でもありませんでした。今振り返れば、外国語を話せることで、優越感を感じていたのかもしれない。

そのような私の動機を大きく変えたのは、父が駐在員として中国に派遣され、私達家族も中国で暮らすようになった時のことです。当時、私は、中国に対して、漠然とした不安を持っていました。中国関連のニュースは驚くべきものばかりで、例えば、生ごみから油を絞り出していた一味が逮捕された、というニュースを聞いたとき、私は思わず、中国の食用油はみんな不衛生な油ではないのかと考えてしまったほどです。

では、私は、その不信感からどのように抜け出したのでしょうか。それは、ずばり「コミュニケーション」です。中国人の先生や日本人の友達と一緒に勉強し、率直なコミュニケーションをすることで私の偏見は徐々にそして確実に消えて行きました。彼らも私と同様の、普通の人間だと感じたからです。このように、私は、外国の人と友人関係を築いたことで、今まで私が生きてきた世界がどんなに狭くて、偏見にとらわれていたのか、ということを実感しました。どの国の人も、人間としての考えはみな同じで、ただ、表現する方法が少し違うだけだ、ということを経験し、コミュニケーションを通して悟ったのです。そして、そのコミュニケーションの土台が言語だということに気づいた途端、私はなぜ外国語を学ぶのかという質問にはっきり答えられるようになりました。外国語を通じて、人に対する偏見をなくし、同じ人間だと理解しあえるということを経験したからです。

コミュニケーションは、国家間の交流が活発な今、さらに重要な意味を持つようになりました。韓国と日本との間で、国民感情が悪化している背景にもこのようなコミュニケーションの不足があると思います。勿論、全ての人がお互いに興味を持ち、理解し合おうとすることは期待できません。ですが、両国の中に、それぞれの言語や文化を正しく理解しようと努力し、両国の橋渡しになろうとする人々は必ずいます。そこで、彼らがコミュニケーションの媒介となり、両国間の交流を手助けすることで、滞っていたコミュニケーションがスムーズに行えるようになり、もっと深くお互い理解しあうことができるようになると私は確信しています。

そして、是非私もその架け橋の一人として、これからも外国語を積極的に学んで行くことを決意しています。

ご清聴ありがとうございました。

## 架け橋

高等部 김선영 (金璇榮, Kim Seon Yeong)

私は子供の頃、もちろん今でもまだまだ子供なのですけれども、ものすごいテレビっ子でした。テレビから離れることはなく、友達と遊ぶことよりもモニターの前にすわるのが好きなくらいでした。夢と希望と冒険のあふれるアニメの中の主人公たちは、幼い私の憧れの対象で、私は深くアニメにハマっていったのです。

この国で放送されるアニメは、全部流暢な韓国語を話しますし、キャラクターや地名まで韓国風です。だから、その頃の私はテレビのアニメは韓国で作ったものだと思っていました。そんな私にとってあれらが全部日本のものだったという事実は空が落ちてきたようなもので、それを知った時の衝撃は今でも忘れられません。しかし、その時感じた新鮮味はそれを上回り、私は日本という国に興味を持つようになって、その好奇心は日本語にまで際限なく広がっていきました。

とは言ったものの、正直に申しますと最初に日本語に手を出したのはアニメを見るための手段にすぎませんでした。でも、そのうち日本語を知っていればアニメの情報検索にも便利だし、まだ翻訳されていない作品も見られるしで、いいことづくめだと気づいたのです。いざ勉強を始めてみるとだんだん面白くなって、私の中の学究が目を覚ましたのです。そして、むしろアニメの方が日本語の勉強のための手段となっていきました。

そうやって私の夢は自然に日本語の翻訳家になっていました。でも、「ぜったい日本語の翻訳家になってやる！」というのではなく、ただただ、なんとなく感じていました。けれど去年、こんな私の夢を確固としたものにしてくれた経験をしました。私は、日本に研修に行ってきたのです。

ここだけの話、この研修はただ観光目的の軽い気持ちで参加しました。しかし、そこで私はとても大事な何かに気付くことができました。それは、偏見はお互いを隔てる壁にしかならないということです。ありふれた見解だと思われるかもしれませんが、でも、私はそれを直接体で感じたのです。

私は自分が日本に対して友好的だと思っていました。しかし、まわりの人やインターネット、テレビなどのメディアは、日本について否定的なものが多いのではないのでしょうか。私は私の知らないうちに、そんな意見に同化していたようです。それは、日本人は実は韓国人が大嫌いであって、ただそうでないふりをしているだけだというものでした。しかし、少なくとも私の会った人たちは私を心の底から歓迎してくれ、一緒にいてとても楽しそうに見えました。私はメディアからの情報だけで人を、国を判断することがいかに間違っているのかを学ぶことができました。一方では今の韓国と日本の、お互いの国へ対する反発はこの偏見が原因だろうと思い胸が痛みました。

帰国後、こんな悪循環を断ち切るために私なりにできることを真剣に考えてみました。すると、私の頭の中に何人かの人々が浮かんで来て、答えを教えてくれたのです。その人たちは研修で私たちをサポートしてくれた通訳の人たちでした。彼らがいなかったら言語の違う私たちはお互い会話ができなかったろうし、お互いを理解することもできなかったと思います。通訳はその仕事を通じて両国の架け橋になったのです。言語！ 私も言語を通じて両国の架け橋になればそれ以上に素晴らしいことはないと思います、なんとなく思い描いていた日本語の翻訳家になる夢を真面目に考えてみるようになりまし。

それからの私というと、まあ、夢を叶えるために一歩、また一歩とスピードは遅いかもしれないけれども着実に前を目指して進んでいます。私の足跡がいつか両国の架け橋となるその日まで、輝く栄光のその時まで、私の歩みは止まらないでしょう。

## 私の尊敬する人物

高等部 배수현 (裴修玹, Bae Su Hyeon)

皆さん、こんにちは。わたしは坡州女子高校のベスヒョンといいます。今から皆さんに私の尊敬する人物について聞いていただこうと思います。

「尊敬する人物第一位」「ワールドビジョンの持ち主」といって皆さんがピンとくる人はいますか。そうです、私が尊敬する人物はハンビヤ氏です。彼は「世界一周を遂げた人」として有名ですが、数多くの本も執筆しています。彼の作品の中には「風の娘、歩いて地球3回半」を始め様々な旅行エッセイがあります。旅行好きの私ですが、それらの作品を通して、彼の「人となり」や文才にも感動し、ますます彼を尊敬するようになりました。

私がハンビヤ氏を尊敬する一つ目の理由は、彼が「飽くなき挑戦心」を持っているからです。彼は33才にして、陸路のバックパキング旅行を決心し、それまで勤めていた大企業をやめ、周りを心配させました。彼の「飽くなき挑戦心」は安定した生活や未来まできっぱりも捨てるまでに熱いものでした。私も日本語を始めようとした時、勇気が必要でした。塾に通うには往復2時間かかり、人見知りの私にとって新しいクラスメートと仲良くなれるか心配でした。そして、何よりも不安だったのは私が日本語を本当にマスターできるかということでした。ですが、ハンビヤ氏の熱い心が私に伝染し、今や私はこのようにスピーチ大会に出れるまでの日本語の実力をつけることができました。

二つ目は彼の「プラス思考の考え方」です。ある時、彼が中国へ語学研修を受けに行った時のことでした。どういうわけかタイミングが合わず、学校の登録ができませんでした。次の登録は半年先になり、普通であれば、そのタイミングの悪さに落胆したり、恨んだりするかもしれませんが。ですが、彼は「時間を戻すことはできないし、もうこちらに来てしまったんだから、くよくよしても仕方がない。まず、この半年間を楽しもう」と考えたのです。私は、彼のこのプラス思考を生活の小さなことにも適用しています。韓国は「早く早く」の文化であるため、電車で一本乗り遅れると、私はすぐいらいらしていました。ですが今はハンビヤ氏の模範に倣い、無駄に思った時間でも有効活用できるようになりました。

3番目は彼が常に「ワクワク感を持って生きていること」です。ハンビヤ氏の活躍は多岐に渡ります。奥地探検家、緊急救護要員、国連の諮問委員、女子大学の教授、世界市民学校の校長などいつも精力的に活動しています。彼はそれらどの仕事をしている時でも「次はどんなことが待ち受けているのだろう」とワクワクして考えるそうです。私も彼のそんな姿を見て、「私が一番ワクワクして待っていることは何だろう？」と自問してみました。それは「世界中から不平等がなくなること」です。実現が難しいとはわかっていますが、常にその日を希望を持って待ち、その実現のために自分のできる小さなことから始めて行こうと決意しています。

「完璧な地図があって初めて旅に出られるものではない」とハンビヤ氏が言いました。ハンビヤ氏の生き方がまさに私の人生のロールモデルとなりました。彼の描いた地図に導かれつつこれからもがんばりたいと思います。

ご静聴ありがとうございます。

## 「ボランティア活動の本当の意味」

高等部 박예지 (朴叡智, Park Ye Ji)

皆さんは、ボランティア活動とは何かと聞かれたら何と答えますか。頭の中に「かわいそうな人を助けること」と浮かんだ人はいませんか。勿論、これも間違った答えではありません。ですが、ボランティアとはそれだけの意味しかないのでしょうか。

今日は皆さんと「ボランティア活動の本当の意味とは何か」考えて見たいと思います。

まず、ボランティアとは、何でしょうか。辞書を調べると「自ら進んでやること」と定義されていました。では、私たちは、自ら進んで、どんなことを行えば良いのでしょうか。最初に述べた、「かわいそうな人を助ける」ために「自ら進んで何が出来る」と思われますか。私は、今回、このテーマでスピーチするに当たってその点を深く考えるようになりました。その結果、私が考える“真の意味”でのボランティア活動とは、「現在、苦難や困難に遭っている人の“今”だけでなく、“将来”にも益になるようなことは何かと自分自身で考えて行うこと」だと思いました。例えば、足の不自由な方がいれば、私が“今”の彼の杖になってあげることもできますが、もし、可能性が少しでもあるのならば、彼が自分の足で歩けるように私ができることを全て行うことだと思ったのです。皆さんはいかがでしょうか。

また、真のボランティアはボランティアを受ける側をどのように見るべきでしょうか。「かわいそうな人」でしょうか。私はこの点も自分自身を含め、見方を変えていくべきだと思うようになりました。それには、次のような経験がきっかけとなりました。中学2年生の頃、養老院にボランティア活動に行った時のことです。初めは、身寄りのないかわいそうなお爺さんやお婆さんのために掃除をしたり、料理をしてあげようと思っていました。ですが、実際にお爺さん、お婆さんと話すうちに、私にとってそれらの年配の人々は決してかわいそうな人ではなくむしろ、経験のある尊敬すべき人たちであるという気持ちになっていったのです。彼らは身体的には衰え、環境も恵まれているわけではありませんが、決してかわいそうと同情される立場ではありません。尊厳を持って接するべき人なのです。ですので、今は、ボランティアをする側はその点をしっかり思いに留める必要があると感じています。

最後になりましたが、最近の青少年のボランティア活動について少し残念に思っていることがあります。ある学生たちは、ボランティアを義務時間を果足せばよいと安易に考えていたり、お金を寄付するだけ十分だと考える人も多い様です。私は今後、このような青少年のボランティア活動の質を少しずつ改善していくべきだと考えます。今までお話ししてきたように、ボランティアはただ、単に言われたことを行うだけではなく、自ら相手の一番の益になることは何か、どうしたら相手に尊厳を持って接するかなど、“相手を配慮する心”が必ず必要だと考えるからです。それは、決して今のようなボランティア活動では身に付きません。今後、韓国も少子高齢化社会になり、ますます“真のボランティア”の意味を理解した上でのボランティアスピリッツが必要になると思います。私は、今、もう一度その精神をどのようにボランティア活動を通じて培っていくべきなのか社会全体で考えるべきではないかと考えています。ご清聴ありがとうございました。

## 日本語が教えてくれたこと

高等部 정승호 (鄭承皓, Jeong Seung Ho)

皆さんが日本語を習い始めたきっかけは何ですか。ゲーム、アニメ、ドラマ・・・それとも J-P O P ? 私の日本語との出会いはそのどれにも当てはまりません。本屋でたまたま手にした日本語の文法の本。とてもミステリアスなものを感じ、購入して勉強を始めたのでした。勉強しながらどんどんその魅力に心を奪われました。そう、私は日本の文化に惹かれたというより、日本語という言語そのものに魅了されたのです。独特なイントネーションや破裂音がとても心地よいと思いました。漢字や慣用語など、韓国語と共通点が多いところもまた興味深かったです。そして外国語高校の日本語科に進学を決めました。

ここで、皆さんに質問です。“무뎀뎀”、“왔다리 갔다리”。皆さんもよく使われますか。これらは純粋な韓国語ではありません。では、由来はどの言語でしょう。答えは日本語です。私は今、高校のプロジェクトでこの日本式表現の乱用について研究し、友人達とチームで論文を書いています。調査のため、高校生を対象に「和製漢語」「造語」「音訳借用語」「文型」に分けて日本式表現と韓国固有語を混ぜ、その中で韓国固有語ではないものを選ばせる設問を作りました。結果、大半の人が日本語の表現を探し出すことができませんでした。それらの表現があまりにも自然に感じられ、固有語でないことさえ気づいていなかったようです。私は研究を進めるにつれ、私達が普段どれだけ固有語を意識せずまた大切にしていなかったのか、思い知りました。

ところで皆さん、「経済」、「文化」、「宿題」、「自動車」・・・私達が日常でよく使っている言葉ですね。これらがどこから由来したのかご存じですか？驚かないでください。これらも全部日本から来た単語です。私達がよく使っている国語の漢字語の半分以上は元々韓国にはなかった日本の言葉であり、ごく自然に、色々な場面で使われています。それにまだ固有の日本語を発音そのままに使う人も沢山います。ご自身のお祖母さんやお爺さんを思い出してみてください。「쓰메키리」とか「다꾸앙」みたいな単語を普段使っていらっしやったりはしませんか？私は日本語がこんなに韓国語に影響を与えたという事実を知ってびっくりしました。さらに21世紀に入り、全世界は交通及び通信の急速な発達によってグローバル・ヴィレッジに変わりました。その結果、国家間の関係や交流がいつそう密接、広範囲になりました。

「간지」や「모에하다」などの新しい日本語がどんどん韓国に入ってきています。また日本語を原書とする翻訳書のシェアが約1/3と、韓国では一番多いとされています。このように日本語は近代から現代に至るまで最も多く翻訳され、韓国語に最も大きな影響を与えています。こうした時代の流れの中、自国の言葉を大切にしたい翻訳教育の必要性を感じるようになりました。それで私は通訳翻訳大学院の教授になりたいと思うようになりました。自らの活発な翻訳活動を通じて国語と自国の文化を守る翻訳文化を確立し、自ら韓国語を立て直したい。またそのような翻訳家を育て上げる教育者になりたいと思いました。また私は将来学者としても中高生の国語教育における翻訳スタイルや表現に関わる教育の必要性を強く主張するつもりです。

日本語が好きになり日本語の研究をする中で、私は自国の事もより深く知り、愛するようになりました。日本語を通じて自分の視野を広げ、夢も見つけました。これが外国語を勉強することの醍醐味なのだと思います。日本語と韓国語を愛する一人の高校生として、多くの人がこの事に気づいてくれたらいいなと思っています。そして私はこれからも日本語を勉強しながら、固有語としての美しい韓国語を未来に残す術を模索していきたいと思っています。

## 私の夢

高等部 노현성 (魯賢成, No Hyeon Seong)

はじめまして、私は テグに 住んでいる 高校二年生の ノ・ヒョンソンと申します。趣味は ボードゲームを含むゲームと 読書です。関心分野は 地球科学以外の 科学全般です。地球科学は どうしても 面白くなりません。ともかく、 よろしくお祈いします。

私が今日 発表するテーマは 私の夢と その夢に 影響を 与えた 人に関してです。まず、私の夢についてです。私は 幼いころから 機械が 好きでした。知らない機械を 見たら触ってみたいり ボタンとかを 押してみたり、 分解してみたり、壊してみたり などなど、色んなことを 試しました。そのせいで 指を切りそうに なった事もありました。いまでも その時の 記憶が生々しいほど ショックでしたが、それでも 私は 機械が 好きでした。そんな 幼い 私の夢が ロボット工学者に なる きっかけと なったのが ガンダムや ガオガイガーみたいな 日本のロボット アニメーションでした。色んな ロボットが その重くて 大きい 胴体で やわらかく 動く その姿は 私を 興奮させました。そして いつかは 私も ガンダムや ガオガイガーみたいな ロボットを 自らの手で デザインして 作ってみたいと 思いました。ちなみに 私が 作りたい 理想のロボットの 最低条件は 人が乗って操縦することができて、足が付いていて、なおかつ わたしがデザインした ロボットです。足は出来れば 二本にしたいんですが 何本でも構いません。雑談が 長引きました。ちょっと 強引に 話を 変えて、アニメーション以外の 日本と私の夢の関係を説明します。昔から 日本は ロボット関連技術が 発展していました。その中で 最も 有名な ロボットが、私が 初めて見た 二足歩行ロボットである、アシモ (ASIMO)でした。昔のアシモは まだ 不自然な 動きを見せていましたが、今では動きも素早くなり、片足での旋回、ジャンプみたいな むずかしい動作も 出来るようになりました。それを見て いつかは そんな 技術がある日本へ 行きたいと 思っています。

次に、私の夢に影響を与えた人についてです。私が 工学者の 夢を持つ事に影響をあたえた 最後の きっかけは ニコラ・テスラというかの有名な 交流電流を 発明した人です。彼の 数多くの 発明品 の 中では トーマス・アルバ・エジソンさんとの 電流戦争に 勝った 交流電流と、テスラコイルが 最も有名です。彼の発明品は 色んな 現代工学や 実生活に 大いなる影響を 与えました。私は ニコラ・テスラさんの 色んな分野での 広範囲な 知識と その知識 故に 作ることができた 発明品の数々に 引かれました。また、自分が成し遂げた業績に比べて 社会的にみとめられませんでした。そんな事は気にもせず 発明にだけ 没頭した彼の 粘り強さと 勇気も尊敬すべきだと思います。いつかは 私も 彼みたいに 色んな分野での工学的知識を 学び 私の夢である ロボット製作に 見事つなげて 見せます。それでは、未来の 私の ロボットが 完成した時の発表会で 会うのを 楽しみにしててください。これにて 私の 発表を 終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

## 一生に残る素晴らしい出会い

高等部 박민지 (朴敏智, Park Min Ji)

初めまして、私はパクミンジと申します。

早速ですが、皆さんは、今までの出会いの中で特に記憶に深く残っている人がいますか。きっといることでしょう。そして、私にもいます。今日はこれからも一生記憶に残るであろう素敵な出会いについてお話しさせていただきます。それは数人の日本人との出会いです。なぜ、彼らとの出会いがそのように深く印象に残ったのでしょうか。それは彼ら日本人が私に対して素晴らしい「真心」を持って私に接してくれたからです。私が初めて日本人と出会ったのは中学二年の同い年の日本人が1泊2日で私の家に宿泊することになった時のことです。彼女は優しく良く気遣いのできる人でしたが、私が最も彼女に感動したのは、私が日本旅行に行った時のことでした。彼女は何と彼女がソウルに来た時に何気なくした私の言葉をよく覚えていてくれて、私が好きな日本にしかないキャラクターショップをわざわざ探し、連れて行ってくれたのです。私はその時、本当に感動し、また初めて日本の真心に触れた気がしました。

次の出会いは翌年の中学3年生の時に家族で東京旅行に行ったときでした。朝、ホテルから駅まで行く道が分からず、通りすがりの人に聞きながら道を探していました。そんな時に、ある女性が私たちの困っている様子を見かねたのか駅まで案内してくれたのです。今から考えれば、彼女にも予定があったと思いますが、嫌な顔一つせず、切符を買うことまで付き合ってくれたのです。私はそのとき、文字でしか知らなかった「日本人の真心」を直接体験することができたのです。私と私の家族のことを真に気遣ってくれた彼女の真心がこの時、私に大きな勇気をくれました。

最後に記憶に残る出会いは高校一年の時でした。私はその時、友人と二人で東京旅行に出かけました。日本語にある程度自信があった私は、観光地ではない場所も行って見ようと思いましたが、案の定、道に迷い、交番に行かざる得なくなりました。その時です。交番のお巡りさんたちはみんな優しく、親切に道を教えてくれました。私は嬉しくなって「有り難う御座います」とお礼を言い、でようとしたとき、驚くことがありました。その警察官の一人のかたが「アニョヒガセヨ」と韓国語で挨拶をしてくれたのです。私はその一言を聞いただけで心がじーんと感動し、暖かい気持ちになったのを今でも覚えています。なぜなら、彼の一言に「楽しく安全な旅行になりますように」と思いが込められた言い方だったからです。ここでも外国人観光客の多い中で、それぞれの国の言葉を一生懸命覚える努力する日本人に真心を感じました。

私はこの出会いに心から感謝しています。そして、この出会いを忘れないように私自身も彼らから学んだ真心を実践していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

## 私の夢、そして私の未来

高等部 박은정 (朴恩正, Park Eun Jeong)

はじめまして

私は将来、日本語の同時通訳仕になりたい、ウルサン星光女子高校、3年生のパク・ウンジョンと申します。これから私がこういう夢を持つようになったきっかけと、その夢に向かう私の歩みを皆様に紹介致します。

小学校5年のとき、生まれて初めての海外旅行が日本でした。旅行の三日目、東京の豊田自動車の見学がありました。車の展示場には数々の自動車があって車ごとに職員さんが説明をしているようでした。隣りのところは二人ずつ車に乗って決められたコースを回る体験場が結構面白そうでした。それで、父と妹がまず、車に乗り、次の車に私と母が乗って出発しました。うれしいという気持ちで走っていた私の車が急にとまったんです。途端、私は後ろの車とぶつかりそうで、アーアクと非命を上げました。職員さんらが駆け付けてきました。私は英語で「私たちが何をあやまったんですか」「何をしたらいいんですか」と、何回も尋ねても、職員さんは何の話しか分からないようでした。きれいな制服をかけた女性職員さんが私に何とか説明したが、私も全然分かりませんでした。なぜなら、日本語で話したからです。あの時、私は幼いながら「言葉が通じられなかったら死ぬかもしれない」と思いました。そのとき英語が世界共用語だと信じ込んだのが誤ったことも悟りました。もちろん私たちは無事だったが、今でもあの瞬間の恐ろしさと不安は忘れられません。

あの時から日本語に興味を持ち始め、だんだん実力がよくなり、他の友たちからうらやましがられました。私も誇りを感じました。

勉強をすればするほど欲張りになって翻訳家や強いて日本語の同時通訳仕の夢を見るようになり、その夢をかなえてあの時の恐ろしさの代償にしたいです。

私は夢に向かって単なる日本語だけではなく、日本文学、歴史、文化などにだんだん広げて勉強していますし、学校では日本語のサークル活動、アナウンサーがてらに校外の数ある大会に参加して多くの良い成績を獲得し、最近ではウルサン市青少年賞の国際化部分で受賞しました。何より価値のあることはこの大会で3年連続で参加してここまで来られたのもうれしいこと極まりません。

こういう様々な経験を重ねながら夢に向かって一歩いっば近づいています。

それから、私に誓います。

「ウンジョン

いくら遅くても夢は叶えられるぞ。」

「なせばなる、当って砕けよ」

ありがとうございました。

## 『ソーシャル・ネットワーキング』

### ー 知っておきたい三つのポイント

高等部 이서영 (李抒映, Lee Seo Yeong)

皆さんの中にはSNSを利用している人がたくさんいらっしゃると思います。では、SNSの魅力は何ですか。それならいくらでも言える、と言う人もいらっしゃるでしょう。

今日は、普段皆さんが、あまり気に留めないSNSの注意点について聞いて頂きたいと思います。

まず、SNSはオンライン上で利用者たちが新しい出会いを見つけたり、今までの知り合いとさらに親くなれるコミュニケーションツールの一つです。私たちの国でも人気のあるフェイスブックなどがそのようなサービスの例です。このSNSの威力は利用者数の増加の早さからも分かります。例えば、ラジオの利用者は、5,000万人になるまで38年がかかりました。テレビの視聴者が同じ数に達するまでには13年、インターネットの場合は4年です。では、フェイスブックはどうだったのでしょうか。何と、わずか12か月で2億人の利用者を獲得したのです。

そのような短期間でSNS利用者が増えたのには勿論理由があります。SNSは アカウントを簡単に作れ、様々な分野の情報が迅速に伝わること、また自分を好きなように表現できるという長所があるからです。

それでは、一見、長所だけしかないように見えるSNSですが、私たちが是非知っておくべき三つの注意点について改めて皆さんに聞いていただきたいと思います。

まず、一つ目はSNSには中毒性があるということです。「あ、それはわかる」と思った方もいらっしゃるでしょう。では、SNSの中毒性は、ニコチン中毒、ゲーム中毒と同じくらい深刻だということをご存じだったでしょうか。ある専門家によると、私たち十代はこの中毒に最もかかりやすいと述べています。

「ほとんどの十代は他の人が自分をどう思っているかに敏感に反応するので、フォロワーの意見を常にチェックしたい衝動に駆られる」と言うのです。この中毒の代償は時間の浪費です。そこで、皆さんに提案ですが、あらかじめ時間もどうやって使うか計画を立ててみるのはいかがでしょうか。

次に、SNSは無差別に人を家に招く行為とも言えます。SNSには、生年月日、携帯電話番号などのプライベートを公開できるようになっています。このような情報を載せる背後には、自分のブログを見る人は「皆、知り合いで良い人ばかり」と言う錯覚があるからです。ですが、現実とは違います。実際、『家族旅行中!』という書き込みがもとで空き巣に入られたという事件は少なくありません。そこで、家に招き入れる人を制限するように、ブログの閲覧制限をかけるのは賢明です。

最後にSNSはその使い方によって、自分の評判を決まることさえあります。「デジタル世代」という本では、SNSの書き込みによって仕事を失ったり、不採用になった人が多くいると述べています。そこで、ブログを作成するときには、他人が自分のページを見たらどんな印象を受けるか慎重に考えて見なければなりません。

日本語には「両刃の刃」と言う言葉があります。どんなものにもメリットデメリットがあるということです。SNSもまさにその通りです。私たちもデメリットを知って賢く使いたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## 日本がくれた贈り物

高等部 이소영 (李所盈, Lee So Yeong)

こんにちは。私はヒョウォン高校の3年生イ・ソヨンと申します。

皆さんは、外国で大切な人ができたことがありますか。去年の夏、私は初めて日本に行ってきました。そして、そこで私は色々な人達と会いました。その人達は今も私にとって大切な人達です。それで、今からそこで会った人達の話をしてしようと思います。

まずは、日本での10日間、お互い支い合いながらずっと一緒にいてくれた友達の話です。研修では35人の韓国の学生たちとチームになって行動することになっていました。7人を除くとみんな私と同年でしたし、その7人も私とは1つ違いで、気兼ねなく話かけることができました。日本に関心があって日本語の勉強をしているなど、年だけではなく他にも共通点がたくさんありましたから、私達はすぐに仲良くなりました。同じことに興味を持っている友達ができるというのはかけがえのない喜びだと感じました。今は高校三年生になったり大学生になったりして忙しいですけど、大人になって日本や日本語に関する仕事をしていたら、きっとまた会えると思い、私は今も日本語の勉強に励んでいます。

二つ目に話したいのは、日本の学校で会った日本の高校生達の話です。お互い今まで生きてきた環境は違うけれど、一緒に昼ごはんを食べたり、おしゃべりしたり楽しい時間を過ごしながらだんだん距離が縮まるような感じがしました。文化交流というと、難しそうで、私とは全然関係ないことだと思っていましたが、こんな風にお互いについて少しずつ知っていくのが真の文化交流だと思いました。別れるときはとても名残惜しかったですが、私が大人になって日本を旅行するときまた会おうと約束しましたから、きっとまた会えるはずですよ。

最後に、ホームステイ先のおじいさんと、おばあさんの話をしようと思います。ホームステイは二泊三日でした。二日目は私たちが畑の仕事を手伝うことになっていましたが、実際に私達が仕事を手伝ったのは二十分くらいでした。それに私達は収穫したばかりのスイカまでいただいてなんだか申し訳ない気持ちになりました。夕食を食べた後、私達はおじいさんと散歩に出かけました。のどかな田舎の風景を眺めていたらまるで昔からここに住んでいたかのような懐かしさを感じました。日本の田舎と韓国の田舎はあまり違いがなかったのです。ホームステイの最後の日はとても寂しかったです。おじいさんの車で集合場所に行く時から私は既に泣いていました。集合場所に到着して、おじいさんが「さようなら」と言いながら抱きしめてくれたときには他の友達もみんな泣いてしまいました。おじいさんも、バスに乗ってもずっと泣いている私達を見て、バスに手を振りながら涙を流してしまいました。これで私がいつかまた日本に行く時、会いたい人がたくさんできたのです。

私はこの研修で日本の文化や伝統だけではなく、人との出会いがどんなに大切なものかを同時に学びました。そしてこれは、日本が私にくれた贈り物だと思っています。

こんなに素敵な思い出を作ってくださった皆さん、そして今日、ここにいらっしゃって、私の話を聞いてくださった皆さん、ありがとうございました。

## 日本の美味しい弁当

高等部 이해민 (李惠旻, Lee Hye Min)

こんにちは。皆さん。ウンピョン高校の二年生のイヘミンと申します。

皆さんは日本の文化と聞いたら、まず何が浮かびますか。私は、「お弁当」という言葉が浮かびます。前に日本のコンビニに行った時、本当に驚いたことがあります。大型スーパーではない小さいコンビニでさえ自然に寿司が入っているお弁当を売っていたからです。それを見て日本がお弁当の分野では、他国より飛び切り高い専門性を持っていることに再三気づきました。私は、ここで好奇心が生じました。どうして日本ではこんなにお弁当の文化が発達したのか、知りたくなりました。

一応、「お弁当」の始まりと歴史について調べました。日本最古の歴史書『日本書紀』には、5世紀、鷹狩りの際、携帯用のえさ袋を弁当入れに代用したと書かれています。それから安土桃山時代には、現代に見られる漆器弁当が作られて花見と茶道と一緒に食べるようになりました。江戸時代からは広範囲で優雅な文化として位置づけるようになったといえます。ずっと前から、日本のお弁当の文化がいくら伝統性あるのかを知るようになりました。

そして、わが国の和食屋にもよく使われる言葉である「お弁当」という言葉の由来について調べました。いくつかの説がありますが、よく言われるのは、16世紀に活躍した武将、織田信長の話です。信長は自分の城で大勢の人に食事を与えましたが、その時、一人一人に配る簡単な食事という意味で「お弁当」と名づけられたといえます。「お弁当」という言葉は、「便利なこと」を意味する昔の中国の言葉「便當」から発祥しました。

決定的に日本でお弁当が発達したのは、日本の米の種にも関連性があるといえます。日本の米は、飯を炊いた後にも他国より美味しいからです。それで、本格的に活性化したのは1970年代後半から1980年代だといえます。テイクアウトお弁当専門店が急増してコンビニは画期的に内部にある電子レンジでいつでも弁当を暖かく食べられるお弁当の販売を開始しました。その後、お弁当は日本国民の代表的な食文化になりました。

私たちが、毎日当たり前食べるお弁当には深い歴史があったのです。ここで、日本に学ぶべき点を見つかりました。日本でお弁当の文化が始まったのは、約16世紀ほど前のことですね。今まで残っているのを見ると、素晴らしいと思います。韓国では、飲食やファッションなど、何事にも流行に敏感で、すぐ呆れてしまいます。最近の例としては、「ハニーバターチップス」というお菓子をあげられます。ごく最近までには、人たちがこれを買うために朝にスーパーに並びましたが、今はそうしてまで買う人はいません。この事例を通じて韓国の短所が見られるようになったと思います。先に言ったとおりに、流行に敏感で何事にも根強く持続させるのが大変です。わが国は日本のお弁当を見てもう一度伝統というものを思い返してみるのが必要だと思います。以上です。ご清聴まことにありがとうございました。

## 私はどんな大人になっているか

高等部 정영욱 (鄭映郁, Jeong Yeong Uk)

今日は。

私は高麗高等学校2年生のジョン・ヨンウクと申します。

私と同年の青少年たちは皆、夢と将来の職業について、

自分なりに真剣に悩んだことがあると思います。

このような漠然とした不安や苛立ちは私にとっても例外ではありません。

しかし今では、このような不安は無くなったと言ってもいいでしょう。

それは私が一番好きなことが日本語だと気づいたからです。

日本語を勉強しながら、日本語を通して社会と国に貢献できる職業について考え始めてから、私の人生は少しずつ変わり始めたのです。

日本語が得意という私の利点を生かし、韓国と日本そして社会に貢献したいという思いを持ちながら、今までの努力が無駄にならないように今後も頑張っていきたいと思います。

私が日本語に対して興味を持つようになったのは、中学校1年生の時に日本のアニメを見たのがきっかけです。たまたま見たアニメが面白く、日本という国に関心を持つようになり、興味本位でだんだん夢中になっていきました。中学校3年生の夏、アニメのキャラクター達が使っている言葉を勉強してみたくなり、両親に頼み日本語塾に通うようになりました。実際に習い始めると日本語はとても面白く、自然と鼻歌が出て約1時間以上の距離の通学時間が楽しみになるほど、日本語が大好きになりました。

そして、いつの間にか高校生になり、ただの趣味で終わらせるのはもったいないと思い、将来のために具体的な目標を持つようになりました。

一つ目は、高校を卒業した後、日本語学科に進学するという事です。

二つ目は、大学生活の中で、学業に最善を尽くすという事です。海外ボランティア活動、国際大会での通訳活動、語学研修、また インターンシップなどのさまざまな経験を積んでいきたいと思っています。

最後に、大学を卒業した後、韓国だけでなく日本、また外国でアニメや文学そして文学作品以外にも、いち早く接することができる輸出入を代行するメディア会社に入り、世界的によく知られていないさまざまな分野を各国に伝えたいと思います。

世界はグローバル化がどんどん進み、多文化の共存が当然になってきています。

その流れに私も貢献したいと思います。各国の様々な文化の楽しみと知識を私一人だけでなく、沢山のひと々と共に味わうことのできる、そんな大人に私はなりたいです。このような目標を成し遂げたことで、韓国と日本両国の間に経済的、文化的側面でさらに大きく発展できるように今よりももっともっと努力して立派なリーダーになってこの社会を導いていきたい夢であり、目標です

みなさんは“天職”という言葉をご存じですか。生れつき持っている自分の個性や適性を十分に生かして、楽しみながら仕事をするを指しています。

この言葉からすれば、このように若くして好きなことを見つけることのできた私は幸せな者なのかもしれません。

私もそれを有難く思っていて、両親にも感謝しています。

近頃では、厳しい社会の現実の壁にぶつかり、自分の本当の夢を諦めてしまう人が多いと思います。この

ようなことから、私は自分に与えられたこの才能と時間をもっと大切にして、社会に貢献する人間として自分をさらに成長させたいと思います。

皆さんは学生時代をどう過ごしましたか。いや、今どのように過ごしていますか？

皆さんも私のように夢に近づいているでしょうか。

私は、皆さんの夢も一緒に応援したいです。

そして、私が立派な大人になれるように皆さんも心からの応援をお願いします。

ご静聴ありがとうございました。以上、光州(クアンジュ)高麗高等学校2年生のジヨンヨンウクでした。

## それぞれの幸せ

高等部 최지희 (崔志僖, Choi Ji Hui)

はじめまして、私は漢栄外国語高校2年に在学中のチェ・ジヒと申します。

皆さんは夢を持っていますか。夢というものは生きる目標であり、それを叶えるためにみんな一生懸命頑張って生きていくのでしょうか。私にも外交官という素敵な夢があります。いつの間にか心の中に入ってきて離れなくなりました。しかし最近、一人でゆっくり考えられる時間が増え、自分の夢について深く悩んでみる事が出来ました。そうしたら一つの疑問点ができました。「これが本当に私が幸せになれる未来で、やりたいことなのかな。」って。それで自分の夢に対して自信が持てなくなり、迷い続ける状態になってしまいました。外交官になりたいと思った理由は、あまりよくない韓国と日本の関係を自分が直接少しでもいい方向に発展させたかったからです。この思いは今も変わらないのですが、果たして外交官になった私は本当に幸せになれるのか、不安になりました。

幸せの基準というものは曖昧で、人によって変わります。稼ぐお金に比例して幸せを感じる人、家族と一緒に仲良く暮らすことに幸せを感じる人、家でゆったりと休むのが幸せだと感じる人。なら、人生が幸せになれる方法は何でしょうか。やりたいこと、休むことも諦めて死ぬほど勉強していい大学に入ること？世間が言う出世した道を歩くこと？みんなに羨ましがられるような生活を送ること？そこで私は誰かが作っておいたこのアスファルトみたいな道を歩いた先に私が望んでいた未来があるとは思えなくなりました。一度きりの人生をこんな平凡な生き方で送るなんて、もったいなさすぎるじゃないですか。

たとえ将来の夢と言う小さな夢は叶えることができなかつたとしても、幸せな人生を送ると言う大きな夢が叶えられたなら、それで十分いい人生を生きていると言えるのではないのでしょうか。だからと言って外交官になりたい気持ちを諦めたわけではありません。日韓関係のために最善を尽くしたいと思うのは中学生の時からの夢ですから。何度も何度も挑戦して自分が望む未来が作れるように現在に充実した毎日を送りたいです。

人はみんな夢を持って生きていきます。その夢の大きさには関係なく、夢に向かって必死に走っていきます。幸せの基準も人それぞれ違います。誰も何をすれば幸せになれるのか正確な正義を立てるのは出来ないでしょう。だからこそ自分が幸せを感じられる瞬間はいつなのかを探していくのが大事だと思います。今まで走り続けて来たのなら、少し休んだ後から幸せを探していくのもいいのではないのでしょうか。私も今、少し休んでいるだけです。決して諦めたわけではありません。これからも少しずつ自分が本当に幸せになれる道を探して今この時をいろいろ挑戦しながら充実した人生にしていきたいです。

失敗することを恐れず、挑戦し続けてください。幸せは不意に人生に訪れてくるものです。諦めず走り続けると幸せな日々を送っている自分を見つけられるのではないのでしょうか。

このスピーチを聞いてくださった皆さんもどうか幸せになれることを願っております。

ありがとうございました。